

センターを去るに当たって

安在 弘幸¹

昨年、九州共立大学に大学院の設置を申請するので来てくれということで、本人にとっても突然でしたが本学を3月31日に退官し、4月1日より同大学に勤めています。このため、情報科学センター長の任期を1月余り残して辞任することになり、関係各位にはご迷惑をおかけしました。新センター長の柏木先生はかなり長い計算機センター運営の経験を有しておられますので、新しいセンター運営が大いに期待されます。

本情報科学センターは、情報工学部発足とともに、従来の工学部附属情報処理教育センターが工学部から独立し、コンピュータ、人員および建物の規模をほぼ倍増して、戸畑と飯塚の両キャンパスにまたがるセンターとなったものです。頭初導入された計算機は、飯塚地区にメインフレーム IBM3081、戸畑地区に衛星計算機を置いて、それらにパソコン端末をつないだいわゆる集中分散型システムでした。

平成2年に機種更新のための委員会が構成され、その作業委員会で本学の若手の先生方による熱心な討議を経て更新機種の仕様がいわゆる水平分散型のシステムとして策定され、最終的に SUN ワークステーション 50 台と X 端末約 400 台からなるネットワークシステムの導入が決まりました。仕様公開から入札、そして開札の間に、メインフレームメーカーも一斉にこの種のシステム、すなわちクライアント / サーバ型のシステムの採用を新聞発表したのは印象的でした。富士通は平成3年5月、IBMは同年9月のことでした。

こうして就任1年目は、新システムのための演習室や教室の整備、戸畑-飯塚間や学外のネットワークの整理や戸畑地区の SS-ネットワークの増強などがあって、年度末にシステムの更新が行われました。

ワークステーションネットワークを正常に設定し稼働させるには、現在では、まだかなり高度な技術と経験を要します。本センターでは、旧システムの撤去前に、新システムの1部を導入して、といっても予定よりは遅れたのですが、移行作業をすすめ、新学期にはちゃんと稼働させましたし、この春には UNIX 入門の本を出版するなど、センター教職員の技術の質はかなり高いものがあります。戸畑-飯塚と離れていることが、センター職員の業務連絡

¹現在、九州共立大学工学部電気工学科

を職員グループ内公開の電子メールで行わせることになり、却って密な情報連絡になっているようです。

戸畑キャンパスの機械工学教室では自前で教室内 LAN を張りました。そのデモの席で、学長より、戸畑キャンパス LAN の導入をせつつかれました。かねてより、なんとか安く FDDI が張れないかと腐心していましたので有り難く、早速に事務局と相談し、具体化は竹生先生らによって、とりあえずセンターから機械工学教室までの FDDI が張られました。これを基に全キャンパスへ LAN が張られることと存じます。

短い間でしたが、なんとか大任を果たして来られましたのも、前センター長の有田先生、前次長で現在は近畿大学教授の末永先生や次長の竹生先生はじめセンター教職員、本部や両学部の事務の方々、さらにはいろいろとご協力いただきました皆様方のおかげです。有り難うございました。